

「高たかふはムり升れどこれより

口上くちやうを以て奉もち申まう上升あがル私わたくし

劇場しばあ之儀去いル安政二卯年

より休座きうざ致いたし居升をりあたる処ところ

養父やうふ六代むくめ権けん之介

事こと櫓うら再興さいこう致いたシ

たき多年た苦心くしん

の甲斐かひもなく中ちゆう

途とにして鬼籍きせきに入いり

未熟みじゆくの私わたくし相統さうぞうのその

日ひより寝ねる間まも忘れぬ

亡父ぼうふの遺念あねん貫徹くわんてつなし

たき心しん願がんも十八年じゅうはちねんの苦心くしん

尽力しんりよく枯木こぼくも開花かいくわの時に

逢あひ再ふたび開ひらく河原かゝとさき

新堀町しんぼり一新築しんちやくの土木とぼくの功こう

も落成らくせいし舞台ぶたい開ひらきを致いた升あるも

全まく聖代せいだいの御仁ごじん惠けい又また親しん兄あにより引ひつぎ御ごひみき

厚あつき何いづれも様やうの御引立ごひだり役やくと肺腑ほつかに銘めいじ如何いか計かか

仕組しぐみ御覽ごらんに入いれ奉まうり升あれば初日しよにちより被仰おほせ合あ永当えいとう〈

御来車ごらいしやのほど三十余町さんじゆの隅すみからすみまで

願ねが上が奉まうり升あル〇

附つまして申まう上あるも涙なみだのたね浪花なにはの

露つゆと消行きえゆきし兄あに八代目やちだいめ團十郎

名跡みやうせき中絶ちゆうせつ致いたし居升をりあたるを此このたび

多年しんぐわんじやうしゆの新願成やうふ就かうなし養父へ孝

も立たつなれば実家相じつかさうぞく続九代目に

成田屋なりたやがよからうと去さるル方かたより

おすゝめ私わたくしみ身みにとり一世いつせの眉目びもく

俳優はいやうめう冥加叶みやがなひし仕合しあわせ辞退じたいは中々なか／＼恐れあり

只ただ御ごひあきを頭かうべにいたゞき父兄ふけいの余光よぐわうを力草ちからくさ

九代目團十郎くわいめいと改名かひめいはいたしましたなれど

ほんの父兄ふけいのおもかげとおぼしめし

行末ゆくすゑなづく御引立ひきたてひとへに願ねがひ上ケ

奉りなまふし升ス猶伏なまふしてもふし上あがるは白猿しろざる事

久々ひさ／＼にて帰府きふ仕り海老蔵あひめらたと相改あめ

同流門どうりゆう之助門弟すけのぶ弁之助事べんすけも

新車しんぐるまと改名かひめいいたさせ當座たうざへ

出勤しゅつぎん御目見ごめみ得致ええいたさせ升あがる

何卒なにすま御ごひるき御取立ごとくだち之

ほど幾重いくへにも

願上ねが上あり升あル

舌者した／九代目くわいめい／市川團十郎いちがわだんじゅうらう